



広報いわむろ
“400号”
を迎えて
岩室村長
驚 沢 勉

広報いわむろも、皆様のご愛顧をいただきながら、400号を迎える事になりました。確か昭和37年の5月号が第1号だったように記憶しております。広報は、皆さんの身近な出来事をご紹介申し上げるとともに、村内外の情報をご提供申し上げ、村民各位の日常生活の一助とさせていただく事を目的と致しております。また、現在村外にお住まいの皆様にもふるさと岩室からの便りとして、300部程度を毎月お送りさせていただいております。こちらは大変なご好評をいただき、たくさんの方の礼状と激励のお手紙に添えて浄財のご寄付をいただいておりますことをご披露申し上げます。編集の任にあたる者も、限られた紙面ではありますが、どのようにしたら皆さんに納得いただける情報が提供できるかと、懸命に取り組んでおります。皆様からも是非良い情報に合わせて率直なご意見をいただき、内容の充実を図ってまいりたいと考えております。広報いわむろは、本村唯一の広報紙であります。これを保存いただく事によって、岩室村の流れは一目瞭然であろうかと思われまふ。世の流れは矢の如しといわれますが、往時を思い出すとともに将来のためにも、広報いわむろの保存をお願い申し上げます。400号記念のあいさつといたします。

広報 いわむろが 400号

『広報いわむろ』が、今月号(平成7年8月号)をもちまして、四百号を迎えることとなりました。昭和三十七年五月十二日発行の第一号から、足掛け三十三年の歳月が経過しました。この間、紙面や文字サイズに改良を加えるなど、より読みやすく充実した内容となるように努めてきました。四百号の発行にあたり、今月号では本村出身者の皆さんからいただいた「ふるさとへの便り」や、広報創刊の昭和三十七年から今日までに岩室村で起きた主な出来事(広報から抜粋)などを紹介します。

ふる里をなつかしみ また、いとむ日々

新潟市本町 柏木 多根さん

丸八年寝たきりで、今年一月に逝った母も、亡くなるその日まで「ふる里間瀬」をこよなく愛し、幼い頃をなつかしく思い出しては二人で語り合っていました。広報を読んで聞かせるのが、何よりの楽しみでした。私も六十六歳、間瀬に生まれ育って、ふる里をなつかしみ、またいとむ思いが日に日にしみております。ゴザボシ、ワラゾウリ。一つひとつが忘れられない懐かしい思い出です。広報の係の皆様、本当にご苦労様ですが、今後もがんばってください。

御地で受けた ご恩に深く感謝

東京都台東区 徳永 弘波さん
(旧姓 石川)

『広報いわむろ』四百号、おめでとうございます。私も村誌発刊の頃よりご送付いただき、楽しみに読ませていただいています。今年が終戦五十周年を迎えているので、いろいろ取りざたされておりますが、私たちが横浜空襲で焼け出され、命からがら尻引(栄)の母の実家に疎開したのが



A4サイズへと一回り大きくなり、見やすくなった(?)
最近の広報

昭和二十年六月でした。何も無い丸裸の生活は、大変厳しいものでありました。馴れない雪国の生活でも、季節季節の変化に楽しい思い出もたくさんあり、岩室西国民学校へ小学校で四年間勤務し、可愛い児童の声に囲まれての農村生活は貴重な経験をさせていただきました。結婚で東京へ出て以来帰ることなく三十数年経って、ようやく機会を得て帰ることができるようになりました。すっかり発展した岩室村の様子、公共の建物や大きな機械が自由に入れるように合理的に整備された農地等、目をみはる思いがします。皆様の故郷発展の意欲に、力強い感を覚えます。

広報で昔なつかしい名前を見つけて喜んでいた母(石川ヒナ)も、九十六歳で平成五年に他界しました。新入生の名前も子から孫の年代に変わりました。年月の移り変わりに感慨深いものがあります。当時お世話になりました方々始め、御地で受けた数々のご恩に深く感謝申し上げます。

「岩室生まれ」は わたしの誇り

千葉県千葉市 中原 道夫さん
(俳人)

『広報いわむろ』四百号、おめでとうございます。一口に四百号といっても、編集をやっている者にはその凄さ、大変さが良くわかります。村を離れていても今の村の状況が良くわかります。「随分暮らし易い「村」になったなあ」という気がします。

私が一番最初に見る欄は、不謹慎にも「おおくやみ」の欄。次いで「おめでた」の欄でありました。しかし、「おめでた」の欄には全くといって良い程、もう知った名前はありません。「おおくやみ」の欄の中に時折知った名前を発見し、この人にとって人生を終えた「岩室村」はどんな村だったのだろうか、と思いを巡らせてみることにあります。

岩室村に生まれ岩室村の土に還って行く、それが自然というものです。そして、「ご苦労さまでした」と...

お祝いの一言が妙な具合になりましたが、全国どこへ行っても「私は岩室生まれ」と言い、また誇らしく思っています。

昭和

広報第1号発刊からの 村内の主な 出来事

- 37 4月 新村建設促進協議会発足
- 5月 村の広報紙「いわむろ」第一号発行(5月12日)
- 6月 ヘリコプターによる農業の空中散布始まる(航空防除)
- 38 1月 記録的な「38豪雪」で交通機関大混乱
- 4月 岩室小学校で完全給食がスタート
- 8月 村の老人クラブができる
- 39 1月 第二回村長・村議会議員選挙―村長に佐藤賢之輔氏再選
- 4月 岩室、和納中学校統合(形式統合で一中学二校舎制)
- 5月 第二回村政功労者表彰―横山正巳さんら三十二人が受賞
- 40 5月 新築橋が完成。上川原地区が和納9区の行政区となる
- 7月 塚田県知事が来村。間瀬海岸を「越後七浦海岸」と命名
- 12月 村章制定(佐賀県佐藤定夫さんの作品を採用)
- 41 4月 間瀬中学校が岩室中学校に統合、全村一校となる
- 4月 岩室温泉の温泉集中加熱事業開始
- 4月 国道一六号線巻―吉田町完成
- 12月 和納駅舎改築により駅名を「いわむろ駅」に改称
- 42 1月 田子島・尻引の両地区が合併―「栄」となる
- 7月 役場庁舎を旧和納中学校舎に移転(58年まで使用)
- 7月 東京大学地震研究所岩室地殻変動観測所が間瀬4区に完成
- 43 2月 第三回村長・村議会議員選挙―村長に横山喜八郎氏再選
- 4月 岩室小学校統合完了(旧岩室中学校舎を使用)
- 5月 第一次岩室総合開発審議会発足
- 8月 第一回村民大運動会開催(昭和50年まで毎年開催)
- 44 4月 県下初の有料道路「弥彦山スカイライン」がオープン
- 7月 岩室村区長会が発足
- 10月 石瀬に老人憩いの家「静閑荘」がオープン
- 45 4月 公民館の公営結婚式がスタート
- 8月 間瀬銅山跡地に「越後七浦観音」が開眼
- 46 4月 第四回村長・村議会議員選挙―村長に横山喜八郎氏再選
- 4月 村の本が住民投票の結果「月桂樹」に決定
- 9月 消防岩室分署庁舎完成―警員11人が常駐
- 47 4月 村内の電話がダイヤル式となる
- 6月 水道第一次拡張事業で吉田浄水場から送水開始
- 7月 第一回青年県外派遣事業がスタート(三重県へ6人派遣)
- 48 2月 岩室村史発行(限定二千部)
- 6月 越後七浦「サイドライン」間瀬―野積間5.3キロ開通
- 7月 村初の地域子ども会組織として間瀬子ども会発足
- 49 4月 中央保育園が橋本地区内に新築完成
- 4月 第五回村長・村議会議員選挙―村長に金子誠一氏当選
- 7月 越後七浦「サイドライン」全線開通(角田―野積間)
- 50 3月 岩室村自然休養村管理センター「白岩」が開瀬7区に完成
- 5月 県住宅供給公社の和納三田団地(現12区)の分譲開始
- 51 1月 岩室温泉のキャッチフレーズが「よりのなれ、岩室」に決定
- 7月 初の国際大会「白米高校親善レスリング大会」を岩室で開催
- 12月 村観光協会の「よりのなれ岩室」観光年賀状の印刷スタート
- 52 1月 岩室村民憲章を制定
- 1月 水田利用再編対策協議会発足。配分面積は九十ヘクタール
- 4月 国土調査事業がスタート
- 53 4月 和納三田団地(和納12区)に和納第二保育園完成
- 4月 村長選挙で金子誠一氏再選
- 8月 自然休養村事業で間瀬・嵐松キャンプ場完成
- 54 1月 岩室公民館庁舎が西中地区内に移転新築
- 1月 新村誕生二十周年記念式典挙行政(岩室村公民館で)
- 7月 林道岩室盆地線開通記念村民歩け歩け大会開催
- 55 1月 村の広報紙「広報いわむろ」のタイトルを変更
- 4月 村民体育館完成
- 9月 村民野球場・村民テニスコートにナイター施設完成
- 56 4月 自然休養村事業で丸小山野外緑地広場完成
- 11月 上越新幹線開通記念「いがた景勝百選」に間瀬白岩入選
- 12月 馬場法眼書道画伯から良寛落語の大作五点(20号)を寄贈
- 57 4月 村長選挙で金子誠一氏再選
- 7月 間瀬小学校と塩沢町柳窪小学校の交歓会始まる
- 8月 役場・保養センター、消防岩室分署の三庁舎完成
- 58 2月 広報いわむろ縮刷版発行(1号160号収録)五百部)
- 4月 国鉄・越後線電化
- 8月 岩室村役場開庁支所(昭和9年建設)廃庁
- 59 4月 広報いわむろ縮刷版発行(1号160号収録)五百部)